



関東地方には、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の伝説が、各地に残されています。「若宮」の地名伝説も、その一つに含まれています。

東国征伐に来た尊が、この地に宿り、その場所を「吾が御家」（わがみや）と呼んだのが、「若宮」になったというのです。

ところで、「若宮」の地名は、全国に数多く点在しています。そして、そこには、地域の鎮守ともいえる神社が祀られているのです。こうしたことから、「若宮」とは、本宮から祭神を分祀して、新しく

## 若宮

祀ったお宮を称したもので、それが、やがて、地名となったものだったのです。従って、本市の若宮の地名起源は、現存する八幡神社にあるといえます。

では、若宮八幡神社の本宮はというと、それは、八幡の葛飾八幡宮です。ですから、

## 新しく祀ったお宮の意

日蓮聖人が来たところは、この地域を下総国葛飾郡八幡庄若宮戸と呼んでいました。日蓮が若宮に来たのは、文応元年（一二六〇）ということですが、当時、若宮には、富木常忍が、現在の奥之院を中心に館を構えていました。常忍は、下総の守護、千葉頼胤に仕えた武士で、鎌倉の松葉ヶ谷を追われた日蓮が頼ったのは、この富木常忍でした。

常忍は、日蓮を手厚くもてなしました。このとき、日蓮は、若宮八幡の社頭で説法をしました。伝承では、これを機に、常忍は館の中に法華堂を建立し、そこで、日蓮は百日間にわたる説法を行ったといえます。奥之院の入口に、「宗祖最初転法輪之旧蹟」と彫った碑が建っているのは、このような理由からです。常忍は、日蓮の滅後、僧となって、日常と号しました。法華経寺初代の貫主です（法華経寺境内に像が建ち、奥之院の廟所に墓があります）。

では、常忍の若宮館（若宮城）は、どのような規模をもっていたのでしょうか。現在、奥之院の南と西側には、館を囲った土塁の一部が残っています。また、木下街道の南側、日赤診療所から幹馬場の駐車場に至る地域を、昔は、胤堂・胤戸と呼びました。これは、不寝番の堂の跡と考えられます。さらに、七経塚の南には、数十坪にわたる帯状の窪地が延びていました。これは、館を囲む空堀の跡と思われます。だとすると、若宮八幡神社も館の一部に含まれていたことになりました。

◇（社会教育指導員・綿貫喜郎）

次回は「高谷」を予定しています。



若宮八幡神社